

北海道スペースポート（HOSPO）ご説明資料

2025年4月16日
SPACE COTAN株式会社



SPACE COTAN



大樹町

2021年

2022年

2023年

目的

打上げ事業者の利用計画に従い射場整備を遂行する。

方針

射場整備に関わる
資金確保のための取組み

射場の整備工事開始

LC1他射場の利用促進

施策

①認知向上

講演会、セミナー、
宇宙サミット等実施

②第1期工事整備資金確保

企業版ふるさと納税を
はじめ、寄付による資金確保、
デジタル田園都市国家構想
交付金（地方創生拠点整備
タイプ）採択

③体制整備

①LC1射場の整備開始

第1期工事として着工
（その後、設計変更等あり、
遅延）

②認知向上（継続）

企業版ふるさと納税営業
地方創生関連プレスツアー
宇宙サミット

③地域創生関連取組み

宇宙のまちづくりグランド
デザイン策定

①指定管理開始

滑走路、ハンガー等

②射場利用者誘致

国内、海外の利用者への
アプローチ、利用者確保

③滑走路延伸

1,300m延伸
（24年度当初完成予定）

④LC1の運用方針検討

⑤LC2以降の射場検討



① 6月：滑走路延伸工事の完成

滑走路300mの延伸工事が完了し、1300mの滑走路として運用開始。

② 10月：北海道宇宙サミット開催

10月9-10日の2日間で宇宙サミット開催。
86の企業・団体に協賛/後援/協力。
現地来場者は800人を記録。

③ 10月：世界8宇宙港で覚書（MOU）締結

10月13日イタリアミラノにて、5大陸8宇宙港と
打上げ高頻度化・利便性向上を目指し、
商業宇宙港に係る国際協力に関する覚書を締結

④ 12月：LC1 煙道、土木工事完了

12月に2024年度計画されていたLC1の煙道および
土木工事が計画通り完了。

⑤ 2025年1月：SPACE COTAN宇宙戦略基金に採択

「打上げ高頻度化等を実現する地上系基盤技術開発」に
代表研究機関として採択。
複数種のロケットを高頻度で打上げ可能な次世代の射場の
実現のための研究開発を行う。

⑥ 2025年1月：ワシントン・コンパクトに署名

宇宙活動の行動規範に関する原則ワシントン・コンパクトへ、
世界18の宇宙港とともに署名。
持続可能な宇宙活動の進展、宇宙活動におけるインフラの
相互運用性追求に貢献を目指す。



2023年 延伸工事中

2024年6月延伸工事完成



- ・ 4回目となる北海道宇宙サミット2024を10月9日、10日に開催。
- ・ DAY1は北海道スペースポート（HOSPO）見学ツアーとレセプションパーティー、DAY2はカンファレンスを実施。
- ・ 海外の宇宙港運営企業、ロケット開発ベンチャーなどの登壇を含めて、7つのセッション・講演し24名が登壇。
- ・ 北海道宇宙サミット単独で、来場者数は800名、オンラインを含めた参加者は2,100人を達成。



経済効果

2.3億 円

前回1.1億円
※前回は直接効果のみ算定

現地参加者

800 名

前回1,100名
※別イベント参加者300名含む

合計参加者
(オンライン含む)

2,100 名

前回3,300名

DAY1 北海道スペースポート見学ツアー・レセプションパーティー



DAY2 カンファレンス・PRブース・ミートアップ交流会







LC1 2024年度末（写真）

LC1 完成イメージ（CG）



SPACE COTANは、2025年度は継続的に体制強化を実施し、1月に採択された宇宙戦略基金第1期の技術開発テーマ「将来輸送に向けた地上系基盤技術：打上げ高頻度化等を実現する地上系基盤技術開発」において、複数種ロケットの打ち上げ高頻度化の技術開発を実施していく。

宇宙戦略基金第2期の技術開発テーマ「スマート射場の実現に向けた基盤システム技術」に向けても、着実に取り組みを実施していく。

また、2024年12月に大樹町より委託を受け実施した「LC1運用計画策定に向けた情報提供要請（RFI）」において、国内外の多数のロケット事業者より回答を受領した。その結果、2020年代後半以降から打上げ需要が増加することが想定され、その打上げ需要増加への対応と国内射場での高頻度な打上げの実現にむけて、新たな射場建設の検討を継続して行っていく。

